

2022年1月28日

報道関係各位

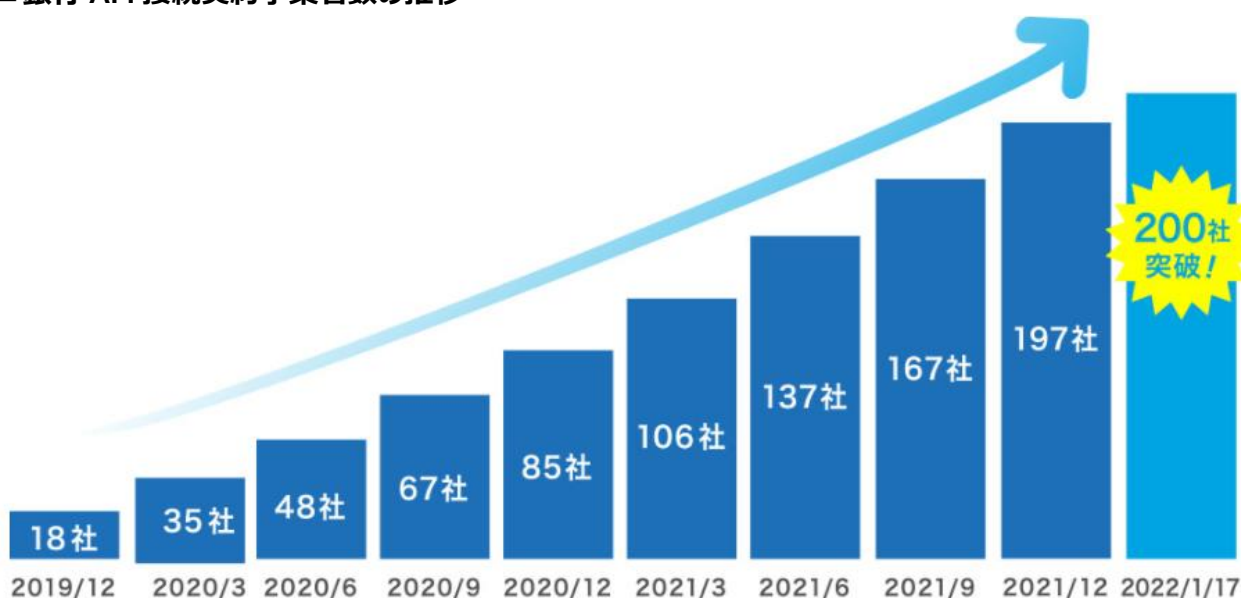
GMO あおぞらネット銀行株式会社

銀行 API 接続契約事業者数 200 社を突破

GMO あおぞらネット銀行株式会社（以下、当社）は、経理業務の大幅な効率化や、新たな FinTech サービスの創出、お客さまサービスへの金融機能の組込推進を目指し、「かんたん組込型金融サービス」において銀行 API^(*)の提供に注力しております。

このたび、当社の銀行 API の接続契約を締結いただいた事業者さまの数が 200 社を突破いたしました。

■ 銀行 API 接続契約事業者数の推移



【銀行 API 接続契約の伸長の背景】

当社は、銀行 API 公開にあたり 4 つのコンセプトを定め、お客さまの口座残高や入出金明細などの情報が連携できる参照系 API の公開を 2019 年 1 月、口座の振込や振替といった資金移動取引ができる更新系 API の公開を同年 5 月に行いました。

■ 銀行 API 公開 4 つのコンセプト

- 1 接続企業のエンジニアさまが開発しやすい環境整備
(開発者ポータル、仕様書公開、サンドボックス、SDK*提供等)
- 2 接続企業の決裁者さまが判断しやすい環境整備
(利用料・接続料無料、明快な接続申請等)
- 3 接続企業のサービスをご利用のお客さまが安心できる環境を整備
(接続企業事前チェック体制、セキュリティ仕様等)
- 4 APIを継続して進化させる
(接続企業さまからのリクエストによりAPIを継続開発)

*SDK・・・開発キットのこと。接続企業さまがAPIを呼び出す際の処理を簡略化することが可能なSDKを公開中。

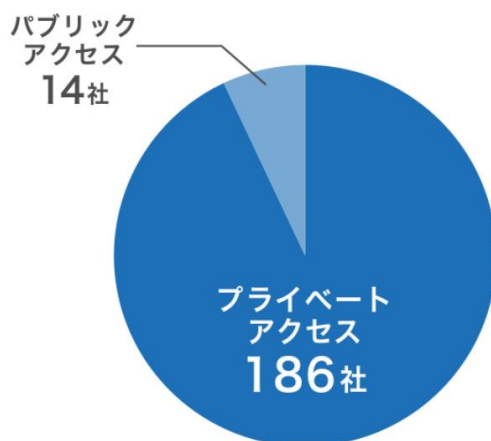
提供開始当初から、銀行 API の基本無償（スタンダード API）提供をはじめ、接続審査にかかる時間短縮、開発者さまからの直接問い合わせをお受けすることで開発スピード向上に貢献するなど、銀行 API を接続しやすい環境の整備を進めてまいりました。

2020 年 4 月には、銀行 API 接続開発の障壁を下げる取り組みとして、国内銀行初となる本格的な銀行 API 実験環境を無償で常時開放する「sunabar -GMO あおぞらネット銀行 API 実験場-」（以下、「sunabar」）を開始しています。また 2021 年 2 月には、この「sunabar」をパワーアップさせ、銀行 API の実験環境、エンジニアコミュニティのほか、システム開発支援や資金調達支援まで踏み込んで接続事業者さまを支援しています。

さらに 2021 年 8 月には、銀行 API をはじめとした銀行パーツを活用したプロダクトを流通させ、日本の組込型金融の普及に資するエコシステム「ichibar 組込型金融マーケットプレイス」を開始するなど、銀行 API を通じて多くの法人のお客さまのビジネスの進化に貢献しています。

【銀行 API 契約事業者の接続内訳について】

当社は、利用用途に応じて、「パブリックアクセス」と「プライベートアクセス」^{(*)2} の 2 つの銀行 API のアクセス（接続）方法を用意しております。中でも、接続企業の自社口座と銀行 API を連携させる「プライベートアクセス」をご契約いただいている事業者さまが 186 社と全体の 93%を占めております。



銀行 API の接続理由のトップ 3 は以下のとおりです。

■ 銀行 API 接続理由トップ 3

- 1 位：経理業務を自動化し、大きなコストダウンにつなげたい
- 2 位：FinTech サービスを提供する事業者さまが、サービスご利用者さま（エンドユーザー）の利便性（CX）向上を目的に導入し、新たなビジネスチャンスとしたい
- 3 位：銀行機能を組み込み新しいインターネットサービスを開始したい

このほか、近年、金融サービスが生活に溶け込んだ「組込型金融」への関心の高まりもあり、銀行 API を CX 向上の目的で導入する事業者さまが増えてきていることから、当社の銀行 API に関するお問い合わせや、セミナーへのご参加者数も増加し、このたび契約事業者数が 1 月 17 日に 200 社を突破いたしました。

【GMO あおぞらネット銀行の API ラインナップ】

現在公開している銀行 API は、個人・法人口座の参照系・更新系合わせて、25 種類の API を無償提供しているほか、有償 API を含むと 32 種類と多数の銀行 API を公開しております。

■ API ラインナップ URL : <https://gmo-aozora.com/pfbank/api-cooperation/apilineup.html>

(*1) API は、アプリケーション・プログラミング・インターフェースの略で、機能やデータを他のアプリケーションから呼び出すための接続口やその仕組みを指します。銀行が公開する API は、銀行と外部の事業者さまとの間を安全にデータ連携するための仕組みです。

(*2) 当社の銀行 API は、「パブリックアクセス」と「プライベートアクセス」の 2 種類の接続方法をご用意しています。

パブリックアクセスは、主に電子決済等代行業者が利用する、第三者に代わって銀行口座へアクセスする方法です。

プライベートアクセスは、接続企業の自社における業務自動化・効率化のために、自社の口座だけにアクセスすることができる接続方法です。

【当社とご契約いただいている電子決済等代行業者さま一覧（50 音順/敬称略）】

URL : <https://gmo-aozora.com/policy/openapi-publish.html>

アスタリスト株式会社	ビリングシステム株式会社
SBI ビジネス・ソリューションズ株式会社	フリー株式会社
エメラダ株式会社	ホワイトカード株式会社
株式会社 Zaim	マネーツリー株式会社
株式会社 Scheeme	株式会社マネーフォワード
ソリマチ株式会社	株式会社ミロク情報サービス
株式会社ネクスト・ブレイン	弥生株式会社

【GMO あおぞらネット銀行株式会社について】

「すべてはお客さまのために。No.1 テクノロジーバンクを目指して」をコーポレートビジョンに掲げ、新しいネット銀行として 2018 年 7 月に誕生しました。システム開発を内製化することで、お客さまに寄り添った金融・決済サービスをスピード感をもって提供しています。オンラインでの口座開設申込や、申込から利用開始までのスピード、各種手数料の安さ、利便性の高い資金調達サービス、銀行 API の充実などを理由に、スモール&スタートアップ企業のお客さまを中心にご利用が急増していることを受け、中長期の戦略として 3 つの大きな柱「1.スモール&スタートアップ企業向け銀行 No.1」、「2.組込型金融サービス No.1」、「3.テックファーストな銀行 No.1」を掲げ、“お客さまのビジネスの成長 = 当社の成長”として、共に成長する銀行であるべく、当社一同、新たなシステムの開発や、サービスの提供などに向けて邁進しております。

【参考 URL】

銀行 API 接続の紹介・申込	https://gmo-aozora.com/pfbank/api-cooperation/api-application.html
銀行 API ご利用事例紹介	https://gmo-aozora.com/pfbank/case/
sunabar-GMO あおぞらネット銀行 API 実験場-	https://gmo-aozora.com/pfbank/sunabarinfo.html
ichibar 組込型金融マーケットプレイス	https://gmo-aozora.com/pfbank/ichibar/

【GMO あおぞらネット銀行株式会社 会社概要】

本店：東京都渋谷区道玄坂 1-2-3 渋谷フクラス

代表者：代表取締役会長 金子 岳人、代表取締役社長 山根 武

資本金：172 億 9,003 万円

設立年月日：1994 年 2 月 28 日

【API 接続サービスに関するお問い合わせ】

GMO あおぞらネット銀行株式会社 ビジネスソリューショングループ 組込型金融サービス事業統括チーム

E-mail : open-api@gmo-aozora.com

【報道関係者さまからのお問い合わせ】

GMO あおぞらネット銀行株式会社 コーポレートコミュニケーショングループ 細田・免田

TEL: 03-4531-2323 E-mail : pr@gmo-aozora.com

以上